

# 令和 6 年度 特例の教育課程の実施状況などについて

## 1. 学校・市町村概要 名護小学校

- ・教育目標: 未来を拓くたくましい子の育成  
1 考えをつくりだす子(創造性) 2 心をみがく子(感性) 3 体をきたえる子(健康)
- ・所在地 沖縄県 名護市 大西2-2-22

### ・児童数

学年	小学校								中学校					小中計
	1	2	3	4	5	6	特別支援学級	計	7	8	9	特別支援学級	計	
児童生徒	130	108	113	128	145	116	61	801						801
学級数	5	4	4	4	5	4	9	35						35

○名護市概要【人口】64,548人【学校数】小学校11校、中学校6校、小中一貫校2校

## 2. 教育課程特例の取り組み・概要

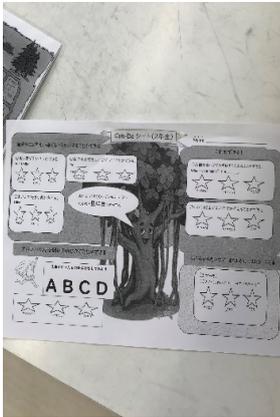
- 歌や遊びなどの活動を通して、英語特有の発音やリズムに慣れる。
- 間違いを恐れず、英語発音を真似し、進んで発話する。

## 3. 取組の工夫:教科等の系統性・連続性を踏まえた学習指導

- 帯活動に始まって、本時のめあて、振り返りまでの流れを毎回繰り返し、目的と見通しを持たせて進めた。
- ゲームを取り入れた活動を通して「めあて」を達成できるようにした。
- JTEと担任のチームティーチングで安心感を与え、わかりやすく活動することができた
- 1年生、2年生の帯活動に新しくアルファベットへ親しむ活動を取り入れた。
- 生徒数の多さを活かし英語でのあいさつなどの活動でコミュニケーションの素地を養った。
- クラス全体→ペア→個人の流れで会話の活動をするを引き続き意識した。
- 自分の名前や好きなものの家族のことなど、自分について英語で会話する帯活動を取り入れた。
- 2年生から3年生への接続を円滑に行うため、JTEを1, 2, 3学年に配属した。
- 担任とJTEによるチーム・ティーチング及び担任主体での授業
- からだをつかった、歌や表現 ジェスチャーゲーム
- クラス全体→ペア→個人 の流れで会話
- ゲーム 身近な物を題材にしたクイズ

- どの活動も最初に教師同士が会話のモデルを見せること。
- 帯活動に自己紹介の基礎を入れて、繰り返し練習し、自然に発話できる姿を目指した。
- 1年生から中学3年生まで継続して使用するcan-do-listの周知と活用。

1年生2年生はcan-do-listの内容をすごろくゲームにして振り返りに活用した。



#### 4. これまでの成果と課題、今後の取り組み

##### 【成果】

- 引き続き、英語が好きで、"できる" という気持ちの子が増えた。
- 英語が苦手という先入観が芽生える前に、楽しい、好きという気持ちを育てることが出来た。
- いつもは発言に躊躇する子供も、たくさんのお友達の前で発表することに積極的であった。

##### 【課題】

- 幼少連携 小中連携 小6から中1へのつなぎ

いろいろな児童のいいところ、苦手なところに寄り添っていきたい。

一人ひとりが輝ける場面をつくっていきたい。